政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） 戸井　和久：株式会社イトーヨーカ堂代表取締役社長

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1-1	現在の経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(6月下旬から7月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。	悪くなっている	個人消費は、増税にともなう反動減からの回復が遅れ気味である。7~8月は、大雨や台風の影響から販売は低迷した。そして9月に入っても販売の回復は見られない。 昨年9月は残暑が長引いたのに対し、今年は秋の訪れが早かった。それにも関わらず、秋物衣料などシーズン品の動きに力強さが見られない。 消費は成熟し、新しかったり上質な商品・サービスを提供しなければ消費者に関心を抱いてもらえない。新商品を開発し、接客をともなって売り込むことで売上を伸ばしていきたい。
1-2	今後の経済のリスク要因（第1回時点と比較して変化がある場合）、あるいは将来への新たな期待要因について、300字以内でご記入ください。	－	１）企業業績は、業態でひとくくりにできなくなりつつある。業態間格差ではなく、企業間格差が大きくなっている。環境変化に対応できない企業は、業績を大幅に落とす可能性が高い。経済の変化にともなう（企業経営上の）リスク要因として指摘したい。 ２）将来へ期待要因としては、海外旅行者の増加にともなう経済効果を挙げたい。10月から免税対象が広がることで、都市部の百貨店に限らずさまざまな分野で訪日客が増えると期待される。訪日客を受け入れる体制作りを積極的に進めている。
経済再生と両立する財政健全化			
2	財政健全化に向け、歳出削減等を始めとして様々な取組が考えられますが、具体的取組内容についてのお考えを300字以内でご記入ください。	－	国民は年金や社会保障などの将来を懸念しており、その不安感が消費を抑える要因の一つになっている。高齢化社会の進展による社会保障費の急増に対し抜本的な改革を進めることで財政の健全化が進めば、国民の将来に対する不安感も解消されて来よう。短期的には痛みを伴う政策もあろうが、政府にはあるべき姿の実現に全力を傾けて欲しい。

政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） 戸井　和久：株式会社イトーヨーカ堂代表取締役社長

質問事項		選択式回答	記述式回答
女性の働き方に中立的な税制・社会保障制度等の在り方			
３－１	どのように女性の働き方に中立的な社会制度を実現していくべきとお考えか、その理由とともに300字以内でご記入ください。	－	いまは、非課税限度額あるいは配偶者手当などの制度が女性の働き方を規程している。規程があるために短時間勤務に従事している女性も少なくないと思われる。税制、社会保障、配偶者控除などを包括的に見直し、女性が平等に働ける体制に整備すべきである。 さらに女性の働き方は、育児あるいは介護などの事由に左右される面も強い。子育てや介護を支える社会インフラを充実させる必要がある。
３－２	女性の働き方に中立的な制度を論じるに当たって、その背景にある事項（女性が働くことへの人々の意識や職場慣行、男性の働き方、子育て支援等の環境整備、家族のあり方等）について、特に言及すべきことがありましたら300字以内でご記入ください。	－	セブン＆アイHDでは、1990年代から女性を役員に登用するなど女性の活躍促進を推進してきた。2012年には、セブン＆アイにダイバーシティ推進プロジェクトを設置した。イトーヨーカ堂においては、店長などの上司への啓蒙活動、女性社員の情報共有などを進めることで女性社員活用に挑戦している。